

# LOBO 調査

## 早期景気観測

10月 日商調査日 10月9日～21日  
当所調査日 10月9日～22日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

10月の全産業DIは▲24・1  
(前月比▲4・1ポイント悪化)

### ○中小企業の景況感

深刻な人手不足や最低賃金引き上げによる人件費の上昇、受注機会の損失、消費税引き上げ、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、米中貿易摩擦、世界経済の動向、日韓情勢の行方など、不透明感が広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感には鈍さがみられる。

### ○プラス要因

一部の地域ではラグビーワールドカップに伴いインバウンドを含む観光需要が好調に推移。

### ○マイナス要因

台風19号の影響による旅行客のキャンセルや客足減少、交通網の寸断、生産活動・物流面への影響を指摘する声が聞かれた。

### ○先行き

先行き見通しDIが▲26・5(前月比▲2・4ポイント)悪化。

### ○期待感の持てるプラス要因

個人消費の拡大やインバウンドを含む

む秋の観光需要拡大への期待感がうかがる。

### 【関東ブロックの業況に関するコメント】

台風15号や19号の被害に伴う修理や保険対応の見積もり依頼が多く、受注は増加している。既に200件以上の依頼を受けており、全ての対応が終わるのに年明け頃までかかる可能性もある(建築工事業)。

ラグビーワールドカップや地元のプロ野球チームのクライマックスシリーズ進出による盛り上がりの恩恵を受け、売上は増加した。人手不足が深刻な状況は続いているものの、これから迎える秋の行楽シーズンは書き入れ時であり、さらなる売上増加を目指している(食料品製造業)。

8月以降は前年同月比1・5倍以上の売上を記録し、駆け込み需要が盛り上がったが、今月は反動減により売上が伸び悩んでいる。

ポイント還元制度の恩恵も感じられるが、落ち込みをカバーしきれない。当面は厳しい状況が続くそうだが、年内には持ち直す見込み(家具小売業)。

### 【当所調査】

### 【全体平均DIは2カ月連続の悪化】

全体平均DIは▲23・1ポイントで、前月に比べ▲9・0ポイントの悪化。項目別では、前月と比較し売上前年が▲39・9ポイント、採算前年が▲38・5ポイント悪化した。

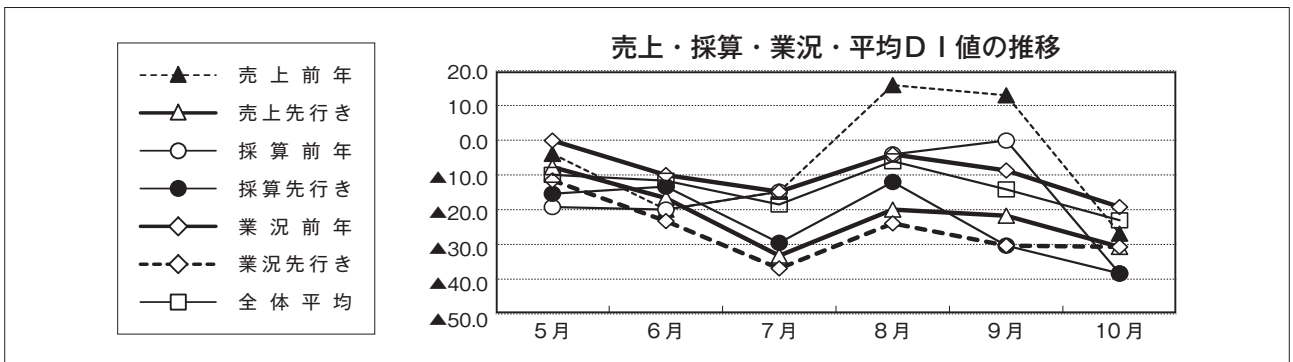
寄せられたコメントには「茨城ゆめ国体の効果で宿泊客が増加し、売上が伸びた一方、茨城ゆめ大会の中止や台風による公共交通機関の運休が続き、キャンセルが増加した」(ホテル業)という声が聞かれた。

(全産業)

## 水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	平成30年		令和元年					
	10月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
売上前年	15.6	▲ 3.8	▲ 20.0	▲ 14.8	16.0	13.0	▲ 26.9	
売上先行き	3.1	▲ 7.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.8	
採算前年	6.3	▲ 19.2	▲ 20.0	▲ 14.8	▲ 4.0	0.0	▲ 38.5	
採算先行き	0.0	▲ 15.4	▲ 13.3	▲ 29.6	▲ 12.0	▲ 30.4	▲ 38.5	
仕入前年	▲ 31.3	▲ 42.3	▲ 26.7	▲ 37.0	▲ 28.0	▲ 52.2	▲ 42.3	
仕入先行き	▲ 40.6	▲ 38.5	▲ 40.0	▲ 40.7	▲ 28.0	▲ 56.5	▲ 42.3	
社員前年	28.1	26.9	20.0	14.8	32.0	30.4	19.2	
社員先行き	31.3	26.9	20.0	14.8	20.0	26.1	19.2	
業況前年	6.3	0.0	▲ 10.0	▲ 14.8	▲ 4.0	▲ 8.7	▲ 19.2	
業況先行き	3.1	▲ 11.5	▲ 23.3	▲ 37.0	▲ 24.0	▲ 30.4	▲ 30.8	
資金前年	12.5	▲ 11.5	▲ 3.3	▲ 11.1	▲ 4.0	▲ 13.0	▲ 19.2	
資金先行き	6.3	▲ 23.1	▲ 6.7	▲ 18.5	▲ 16.0	▲ 26.1	▲ 26.9	
全体平均	3.4	▲ 9.9	▲ 11.7	▲ 18.5	▲ 6.0	▲ 14.1	▲ 23.1	



\*DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。